



2152
#4

PATENT
83365.0001

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of:

Nobuyoshi SAKATANI

Serial No: 10/020,585

Filed: October 22, 2001

For: Information Delivery System,
Advertisement Delivery System,
Information Delivery Program, Server,
Information Delivery Server,
Advertisement Information Delivery
Method and Saver Page Display Method

Art Unit: 2152

Examiner: Not Assigned

I hereby certify that this correspondence
is being deposited with the United States
Postal Service with sufficient postage as
first class mail in an envelope addressed
to:

Assistant Commissioner for Patents
Washington D.C. 20231, on

January 29, 2002

Date of Deposit

Shindale Ferguson

Name

Signature

January 29, 2002

Date

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

RECEIVED

FEB 19 2002

Dear Sir:

Technology Center 2100

Enclosed herewith is a certified copy of Japanese patent application
No. 2000-338734 which was filed November 7, 2000; application No. 2001-026124
which was filed February 1, 2001; and application No. 2001-200203 which was filed
June 29, 2001, from which priority is claimed under 35 U.S.C. § 119 and Rule 55.

Acknowledgment of the priority document(s) is respectfully requested to
ensure that the subject information appears on the printed patent.

Respectfully submitted,

HOGAN & HARTSON L.L.P.

Date: January 29, 2002

By: 

Ying Chen

Registration No. 50,193

Attorney for Applicant(s)

500 South Grand Avenue, Suite 1900
Los Angeles, California 90071
Telephone: 213-337-6700
Facsimile: 213-337-6701



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年11月 7日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-338734

出 願 人
Applicant(s):

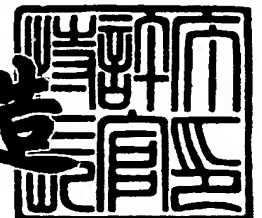
酒谷 信佳

RECEIVED
FEB 19 2002
Technology Center 2100

2001年11月30日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3105167

【書類名】 特許願

【整理番号】 201953

【あて先】 特許庁長官 殿

【提出日】 平成12年11月 7日

【国際特許分類】 G06F 13/00
G06F 15/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都文京区本郷1-25-2 明幸ビル6階 株式会
社イー・ビジョン内

【氏名】 酒谷 信佳

【特許出願人】

【住所又は居所】 東京都文京区本郷1-25-2 明幸ビル6階

【氏名又は名称】 株式会社 イー・ビジョン

【代理人】

【識別番号】 100095267

【弁理士】

【氏名又は名称】 小島 高城郎

【選任した代理人】

【識別番号】 100111604

【弁理士】

【氏名又は名称】 佐藤 卓也

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 056672

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 図面 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ネットワークシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも一台のコンピュータ端末装置と情報提供者サーバとがネットワークを介して接続されたネットワークシステムであって、前記コンピュータ端末装置からのアクセスに応じて前記情報提供者サーバから前記コンピュータ端末装置に情報が送られ、前記コンピュータ端末装置に前記情報が表示情報として表示された際、前記コンピュータ端末装置には、入力操作がなく予め定められた時間が経過すると前記情報提供者サーバから予め定められた情報を自動的に取り込み前記表示情報として表示する第 1 の手段が備えられていることを特徴とするネットワークシステム。

【請求項 2】 前記ネットワークはインターネットであり、前記コンピュータ端末装置には Web ブラウザが備えられており、前記コンピュータ端末装置に前記表示情報として Web ページが表示された際、前記入力操作がなく前記予め定められた時間が経過すると、前記第 1 の手段は、前記 Web ページから前記予め定められた情報として用いられるスクリーンセーバーページに自動的にジャンプするようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載のネットワークシステム。

【請求項 3】 前記第 1 の手段は、前記コンピュータ端末装置に前記表示情報として前記 Web ページが表示された際前記予め定められた時間の計時を開始するタイマー手段と、前記入力操作があったか否かを判定する第 1 の判定手段と、該第 1 の判定手段による判定の結果前記入力操作がなく前記予め定められた時間が経過すると前記 Web ページから前記スクリーンセーバーページへ自動的にジャンプするジャンプ手段とを有することを特徴とする請求項 2 に記載のネットワークシステム。

【請求項 4】 前記タイマー手段は、前記第 1 の判定手段による判定の結果前記入力操作があるとリセットされた後再び前記予め定められた時間の計時を開始するようにしたことを特徴とする請求項 3 に記載のネットワークシステム。

【請求項 5】 さらに、前記 Web ページから前記スクリーンセーバーページへジャンプした後、前記入力操作があったか否かを判定して、前記入力操作が

あると前記Webページに復帰させる第2の判定手段を有することを特徴とする請求項3又は4に記載のネットワークシステム。

【請求項6】 前記タイマー手段は、前記第2の判定手段による判定の結果入力操作があるとリセットされた後再び前記予め定められた時間の計時を開始するようにしたことを特徴とする請求項5に記載のネットワークシステム。

【請求項7】 前記ネットワークはインターネットであり、前記コンピュータ端末装置にはWebブラウザが備えられており、前記コンピュータ端末装置に前記表示情報としてWebページが表示された際、前記コンピュータ端末装置から入力操作がなく前記予め定められた時間が経過すると、前記第1の手段は、前記予め定められた情報として用いられるスクリーンセーバーページを自動的に開くようにしたことを特徴とする請求項1に記載のネットワークシステム。

【請求項8】 前記第1の手段は、コンピュータ端末装置に前記表示情報として前記Webページが表示された際前記予め定められた時間の計時を開始するタイマー手段と、前記入力操作があったか否かを判定する第1の判定手段と、該第1の判定手段による判定の結果前記入力操作がなく前記予め定められた時間が経過すると前記スクリーンセーバーページを自動的に開くページ開手段とを有することを特徴とする請求項7に記載のネットワークシステム。

【請求項9】 前記タイマー手段は、前記第1の判定手段による判定の結果前記入力操作があるとリセットされた後再び前記予め定められた時間の計時を開始するようにしたことを特徴とする請求項8に記載のネットワークシステム。

【請求項10】 さらに、前記スクリーンセーバーページが開かれた後、前記入力操作があったか否かを判定して、前記入力操作があると前記スクリーンセーバーページを閉じる第2の判定手段を有することを特徴とする請求項8又は9に記載のネットワークシステム。

【請求項11】 前記タイマー手段は、前記第2の判定手段による判定の結果前記入力操作があるとリセットされた後再び前記予め定められた時間の計時を開始するようにしたことを特徴とする請求項10に記載のネットワークシステム。

【請求項12】 前記予め定められた情報には広告が掲載されていることを

特徴とする請求項 1 乃至 1 1 のいずれかに記載のネットワークシステム。

【請求項 1 3】 前記予め定められた情報が前記表示情報として表示されている際、予め規定された所定の入力操作があると、前記第 1 の手段は、前記予め定められた情報から前記所定の入力操作で指定された指定情報へ前記表示情報を変更するようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載のネットワークシステム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワークに関し、特に、パーソナルコンピュータ（パソコン）等で用いられるスクリーンセーバーを管理するためのシステムに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

一般に、パソコン等のコンピュータ（以下パソコンと総称する）を操作可能状態にした後、パソコンを操作中に暫く入力などを行わないことがある。このような場合に、例えば、C R T 等のブラウン管画面の焼きつきを防ぐため、所定の時間入力が無いと、自動的に画面を暗くして、画面上に動画などを表示するソフトウェアがある。この種のソフトウェアは、一般に、スクリーンセーバーと呼ばれている。

【0 0 0 3】

従来、スクリーンセーバーを使用する際には、パソコンに毎にスクリーンセーバーをインストールしており、この際、各パソコン、つまり、O S（オペレーティングシステム）に依存したプログラム形態で、スクリーンセーバーをインストールしなければならない場合もある。

【0 0 0 4】

ここで、スクリーンセーバーの機能について概説すると、スクリーンセーバーでは、パソコンへの入力があると、いままでのタイマーカウントをリセットして、新たにタイマーのカウントを開始する。そして、入力が無いまま、タイマーカウントが予め定められた時間（所定の時間）となると、スクリーンセーバーでは、C R T 等のモニター画面を暗くするとともに、当該スクリーンセーバーに設定

された動画等の画像をモニター画面に表示する。

【0005】

その後、パソコンに入力があると、スクリーンセーバーでは、モニター画面を元の状態に戻すとともに、タイマーカウントをリセットした後、再び、タイマーのカウントを開始する。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

上述のように、スクリーンセーバーを用いる際には、各パソコンに依存したプログラム形態でスクリーンセーバープログラムをインストールする必要がある、各パソコンに依存したプログラム形態でスクリーンセーバープログラムを用意すると、汎用性に欠けるという問題点がある。

【0007】

さらに、スクリーンセーバープログラムをパソコンにインストールする際には、ユーザー自身が行わなければならないことが多く、このようなインストール作業に慣れていないユーザーは勿論のこと、ある程度熟練しているユーザーにとっても、インストール作業は面倒であるという問題点がある。

【0008】

さらに、スクリーンセーバーによるモニター画面上の表示内容（動画等）を変更する際には、つまり、他の表示内容に変更したい場合等には、別のスクリーンセーバープログラムを再度パソコンにインストールしなければならず、インストール作業が面倒であるばかりでなく、適宜モニター画面上の表示内容を変更したい場合に迅速に対応できないという問題点がある。

【0009】

本発明の目的は、汎用性をもってスクリーンセーバーを管理することのできるネットワークシステムを提供することにある。

【0010】

本発明の他の目的は、適宜モニター画面上の表示内容を変更できしかもスクリーンセーバープログラムをインストールするための作業が不要なネットワークシステムを提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

本発明によれば、少なくとも一台のコンピュータ端末装置と情報提供者サーバとがネットワークを介して接続されたネットワークシステムであって、前記コンピュータ端末装置からのアクセスに応じて前記情報提供者サーバから前記コンピュータ端末装置に情報が送られ、前記コンピュータ端末装置に前記情報が表示情報として表示された際、前記コンピュータ端末装置には、入力操作がなく予め定められた時間が経過すると前記情報提供者サーバから予め定められた情報を自動的に取り込み前記表示情報として表示する第1の手段が備えられていることを特徴とするネットワークシステムが得られる。

【0012】

そして、前記予め定められた情報が前記表示情報として表示されている際、予め規定された所定の入力操作があると、前記第1の手段は、前記予め定められた情報から前記所定の入力操作で指定された指定情報へ前記表示情報を変更するようにしてもよい。

【0013】

例えば、前記ネットワークはインターネットであり、前記コンピュータ端末装置にはWebブラウザが備えられており、前記コンピュータ端末装置に前記表示情報としてWebページが表示された際、前記入力操作がなく予め定められた時間が経過すると、前記第1の手段は、前記Webページから前記予め定められた情報として用いられるスクリーンセーバーページに自動的にジャンプする。つまり、前記第1の手段は、前記表示情報としてWebページが表示された際予め定められた時間の計時を開始するタイマー手段と、前記入力操作があったか否かを判定する第1の判定手段と、該第1の判定手段による判定の結果前記入力操作がなく前記予め定められた時間が経過すると前記Webページから前記スクリーンセーバーページへ自動的にジャンプするジャンプ手段とを有している。

【0014】

なお、前記タイマー手段は、前記第1の判定手段による判定の結果入力操作があるとリセットされた後再び前記予め定められた時間の計時を開始する。そして

、前記Webページから前記スクリーンセーバーページへ自動的にジャンプした後、前記入力操作があったか否かを判定して、前記入力操作があると前記Webページに復帰させる第2の判定手段が備えられており、前記タイマー手段は、前記第2の判定手段による判定の結果入力操作があるとリセットされた後再び前記予め定められた時間の計時を開始する。

【0015】

また、前記コンピュータ端末装置に前記表示情報としてWebページが表示された際、前記入力操作がなく予め定められた時間が経過すると、前記第1の手段は、前記予め定められた情報として用いられるスクリーンセーバーページを自動的に開くようにしてもよい。この際には、前記第2の判定手段は、前記スクリーンセーバーページが開かれた後、前記入力操作があったか否かを判定して、前記入力操作があると前記スクリーンセーバーページを閉じる。また、スクリーンセーバーページを広告媒体として用いるようにしてもよい。

【0016】

【発明の実施の形態】

以下本発明について実施の形態に基づいて説明する。

【0017】

図1を参照して、一般に、パソコン（コンピュータ端末装置）11は、インターネットサービスプロバイダー（ISP）サーバ12に接続されていることが多く、このようなパソコン11では、ネットワーク（インターネット）13を介して各種情報の送受及び閲覧等を行うことができる（なお、図1には、説明の便宜上、一台のパソコンのみが示されているが、実際には複数のパソコンがインターネット13に接続されている）。

【0018】

具体的には、パソコン11には、Webブラウザ11aが備えられており、Webブラウザ11aからの要求（アクセス）に応じて、情報提供者サーバ14（図1に示す例では、説明の便宜上、一つの情報提供者サーバ14のみが示されているが実際には複数の情報提供者サーバが存在する）はWebブラウザ11aに各種情報を提供する。Webブラウザ11aと情報提供者サーバ14との間の通

信には、TCP/IP（トランスミッション制御プロトコル／インターネット・プロトコル）上で、HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）に従って行われており、情報提供者サーバ14では、指定されたWWW（World Wide Web）ドキュメントのページをブラウザに送信する。

【0019】

WWWドキュメントは、HTML（ハイパーテキスト・マークアップ言語）によって記述されており、Webブラウザ11aからのWWWドキュメントの指定、あるWWWドキュメントから他のドキュメントへのリンクを行う際には、URL（Uniform Resource Locator）が用いられる。つまり、ハイパーテキストであるWWWドキュメントでは、関連する他の情報へのリンク（ポインタ）を含むことができる。

【0020】

いま、パソコン11を起動して、インターネット13を介してあるWebページをアクセスしているとする。ここでは、パソコン11、つまり、Webブラウザ11aによってアクセスされているWebページを元Webページと呼ぶことにする。当然のことながら、ユーザーはマウス及び／又はキーボード等の入力装置（図示せず）を操作して、元Webページを閲覧して、種々の情報等を引き出している。

【0021】

ここで、図2も参照して、上述のように、Webブラウザ11aと元Webページとが接続されると（ステップS1）、パソコン11、つまり、Webブラウザ11aでは、スクリーンセーバールーチンを実行する。

【0022】

具体的には、Webブラウザ11aと元Webページとが接続されると、Webブラウザ11aでは、タイマーに予め定められた時間（以下規定時間と呼ぶ）をセットした後、計時を開始する。つまり、タイマーセットを行う（ステップS2）。このようにして、タイマーセットが行われた後、Webブラウザ11aでは、ユーザーがパソコン11の入力装置を操作して、アクセスを行ったか否かを監視している。言い換えると、Webブラウザ11aでは、マウスが操作された

か又はキーボードが操作されたかを監視している（ステップS3）。

【0023】

Webブラウザ11aでは、規定時間が経過する前に、入力装置が操作されると、タイマーをリセットした後、再びタイマーセットを行う。つまり、ステップS2に戻る。一方、入力装置が操作されないまま、規定時間が経過すると（タイムアップすると：ステップS4）、Webブラウザ11aでは、元Webページからスクリーンセーバーページ（スクリーンセーブ用の画像ページ）へのジャンプを自動的に実行する（ステップS5）。つまり、元Webページは、他のWebページ（ここでは、スクリーンセーバーページ）に、URLでリンクされており（元Webページは、関連する他の情報（スクリーンセーバーページ）へのリンク（ポインタ）を含んでおり、入力装置が操作されないまま、規定時間が経過すると、Webブラウザ11aは、元Webページからリンクされたスクリーンセーバーページへ自動的にジャンプする。

【0024】

このスクリーンセーバーページは、前述のスクリーンセーバーと同様の機能を有しており、元Webページにリンクしたスクリーンセーバーページを複数備えるようにしてもよい。つまり、複数のスクリーンセーバーページを備えるようにすれば、Webブラウザ11aでは、適宜、複数のスクリーンセーバーページのうちのひとつを選択して、この選択されたスクリーンセーバーにジャンプするようにしてもよい。スクリーンセーバーページの選択に当たっては、種々の手法が用いられるが、例えば、時刻（時間）に応じて順次スクリーンセーバーページを選択するようにしてもよい。

【0025】

上述のように、規定時間が経過すると、Webブラウザ11aでは、元Webページからスクリーンセーバーページへのジャンプを自動的に実行するようにしたから、恰も、パソコン11に対して入力がないまま、規定時間が経過すると、CRT等のモニター画面に動画等の画像を表示するのと同様のスクリーンセーバー機能を得ることができることになる。言い換えると、スクリーンセーバープログラムをパソコンにインストールことなく、動画等の画像を画面上に表示させる

ことができ、さらに、複数のスクリーンセーバーページから適宜選択するようにすれば、ユーザー自身が、他のスクリーンセーバープログラムをパソコンにインストールことなく、モニター画面上の表示内容（動画等）を変更することができることになる。

【0026】

上述のようにして、スクリーンセーバーページにジャンプした後、Webブラウザ11aでは、入力装置が操作されたか否かを監視する（ステップS6）。そして、入力装置が操作されなければ、Webブラウザ11aでは、クリーンセーバーページの表示を継続する。この際、Webブラウザ11aでは、定期的に（予め設定された時間が経過する都度）、表示内容を他のスクリーンセーバーページに変更するようにしてもよい。つまり、他のスクリーンセーバーページに自動的にジャンプするようにしてもよい。

【0027】

一方、入力装置が操作されると、Webサーバ11aでは、表示内容をスクリーンセーバーページから元Webページに戻し（ステップS7）、再びタイマーセットを行う。つまり、ステップS2に戻る。

【0028】

このようにして、パソコン11（つまり、Webブラウザ11a）が、元Webページに接続された後、予め設定された時間（規定時間）が経過しても、入力装置からの入力がないと、元Webページからスクリーンセーバーページに自動的にジャンプするようにしたから、スクリーンセーバープログラムをパソコンにインストールことなく、動画等の画像を画面上に表示させることができる。なお、Webブラウザ11aと元Webページとの接続が絶たれると、上述のスクリーンセーバールーチンは終了する。

【0029】

また、図2に示す例において、スクリーンセーバーページに各種広告を掲載するようにしてもよい。つまり、スクリーンセーバーページを各種広告媒体として用いるようにしてもよい。加えて、スクリーンセーバーページが表示されている際、パソコン11の入力装置から所定の入力操作を行うと、例えば、特定のキー

操作を行うと、Webブラウザ11aでは、このキー操作によってスクリーンセーバーページから指定されたWebページに自動的にジャンプするようにしてもよい。

【0030】

このように、特定のキー操作が行われた際、スクリーンセーバーページから指定されたWebページに自動的にジャンプするようにすれば、例えば、スクリーンセーバーページに広告が掲載されており、指定されたWebページに広告の詳細な内容（例えば、広告で扱う対象）が掲載されている場合には、ユーザーがスクリーンセーバー（つまり、広告）を見て、その広告を詳しく知りたい場合、特定のキー操作を行うだけで、広告の詳細な内容を閲覧することができることになる。

【0031】

さらに、前述のようして、Webブラウザ11aが情報提供者サーバ14からスクリーンセーバーページを取得すると（つまり、ジャンプすると）、情報提供者サーバ14は、いずれのWebページからスクリーンセーバーページにジャンプしたかを示す情報及びパソコン11（つまり、ユーザー）に関する情報を、例えば、データベース（図示せず）に格納する。さらに、前述の特定のキー操作が行われて、スクリーンセーバーページから指定されたWebページへのジャンプが行われると、情報提供者サーバ14では、スクリーンセーバーページから指定されたWebページへのジャンプを示す情報をデータベースに格納する。このようにして、データベースに格納された情報は、例えば、後日、広告主に対して閲覧回数等を報告する際に用いられる。

【0032】

次に、図3を参照して、別ウィンドウタイプである場合には、図2と同様に、Webブラウザ11aと元Webページとが接続されると（ステップP1）、Webブラウザ11aでは、タイマーに規定時間をセットした後計時を開始する（タイマーセット：ステップP2）。このようにして、タイマーセットが行われた後、Webブラウザ11aでは、マウス又はキーボード等の入力装置が操作されたかを監視する（ステップP3）。

【0033】

Webブラウザ11aでは、規定時間が経過する前に、入力装置が操作されると、タイマーをリセットした後、再びタイマーセットを行う。つまり、ステップP2に戻る。一方、入力装置が操作されないまま、規定時間が経過すると（ステップP4）、Webブラウザ11aでは、スクリーンセーバーページを、別ウィンドウで開く（ステップP5）。つまり、Webブラウザ11aでは、スクリーンセーバーページに応じて、パソコン11の画面上に動画等の画像を表示する。

【0034】

上述のようにして、スクリーンセーバーページを別ウィンドウで開いた後、Webブラウザ11aでは、入力装置が操作されたか否かを監視する（ステップP6）。そして、入力装置が操作されなければ、Webブラウザ11aでは、スクリーンセーバーページの表示を継続する。この際、Webブラウザ11aでは、定期的に、表示内容を他のスクリーンセーバーページに変更するようにしてもよい（つまり、他のスクリーンセーバーページを開くようにしてもよい）。一方、入力装置が操作されると、Webブラウザ11aでは、スクリーンセーバーページを閉じて（ステップP7）、再びタイマーセットを行う（ステップS2に戻る）。

【0035】

このようにして、図3に示すスクリーンセーバールーチンにおいても、パソコン11（つまり、Webブラウザ11a）が、元Webページに接続された後、予め設定された時間（規定時間）が経過しても、入力装置からの入力がないと、Webブラウザ11aによって、別ウィンドウでスクリーンセーバーページを開くようにしたから、スクリーンセーバープログラムをパソコンにインストールことなく、動画等の画像を画面上に表示させることができる。

【0036】

なお、図3に示す例においても、情報提供者サーバ14側に、複数のスクリーンセーバーページを備えて、Webブラウザ11aが、適宜、複数のスクリーンセーバーページのうちの一つを選択して、画面上に表示するようにしてもよい。

【0037】

さらに、図3に示す例においても、スクリーンセーバーページに各種広告を掲載するようにしてもよい（スクリーンセーバーページを各種広告媒体として用いるようにしてもよい）。つまり、スクリーンセーバーページに広告を掲載して、前述のように、スクリーンセーバールーチンが起動された際、この広告が掲載されたスクリーンセーバーページを表示するようにすれば、不特定多数のユーザーに広告を行うことができることになる。

【0038】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明では、Webブラウザが、Webページ（元Webページ）に接続された後、予め設定された時間（規定時間）が経過しても、入力装置から入力がないと、Webブラウザが表示内容を元Webページからスクリーンセーバーページに自動的に変更するようにしたから、スクリーンセーバープログラムをインストールことなく、スクリーンセーバー画面を自動的に表示させることができるという効果がある。

【0039】

加えて、Webブラウザが表示内容を元Webページからスクリーンセーバーページに自動的に変更するようにしたから、汎用性をもってスクリーンセーバー管理を行うことができ、情報提供者サーバ側で、スクリーンセーバーページの内容を管理運営しているから、適宜モニター画面上の表示内容を変更できるという効果がある。

【0040】

また、前述のように、情報提供者サーバ側で、スクリーンセーバーページ（表示内容）を管理しているから、単純な画像だけでなく、音声及び複雑な動画等を出力・表示供給できるばかりでなく、常に最新の内容を送信できるという効果もある。そして、スクリーンセーバーページを広告媒体として用いれば、不特定多数のユーザーに対して広告を行うこともできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明によるネットワークシステムの一例を示すブロック図である。

【図2】

図1に示すネットワークシステムにおいて、スクリーンセーバー管理動作の一例を説明するためのフローチャートである。

【図3】

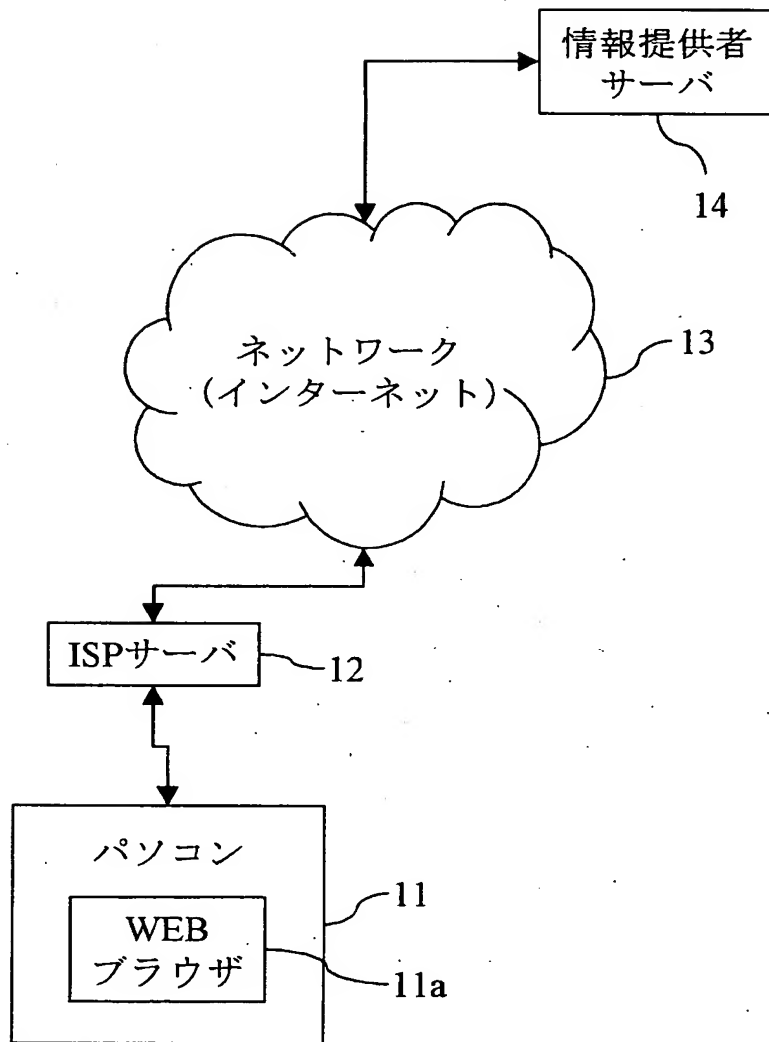
図1に示すネットワークシステムにおいて、スクリーンセーバー管理動作の他の例を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

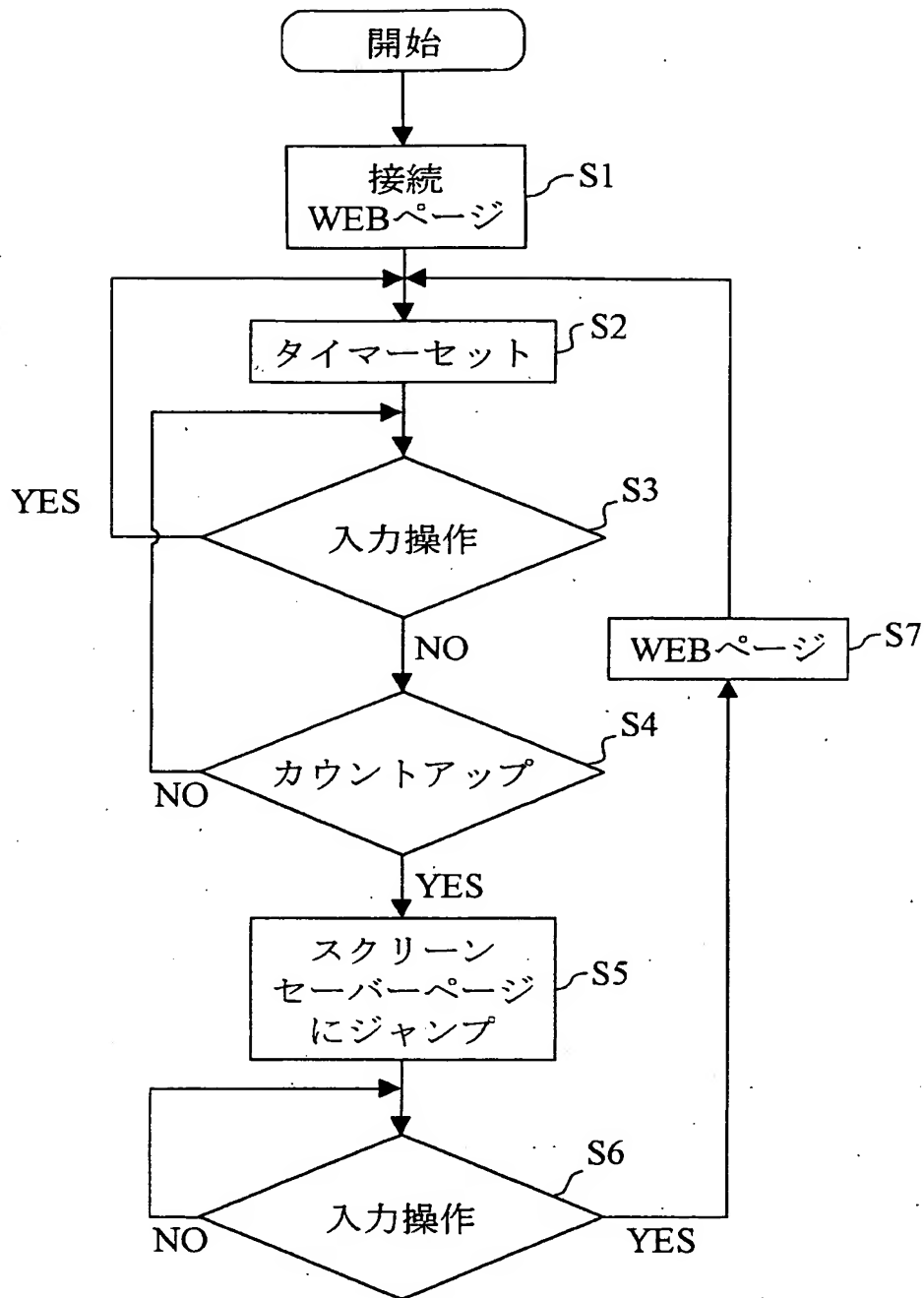
- 11 パソコン
- 11a Webブラウザ
- 12 インターネットサービスプロバイダー（ISP）サーバ
- 13 ネットワーク（インターネット）
- 14 情報提供者サーバ

【書類名】 図面

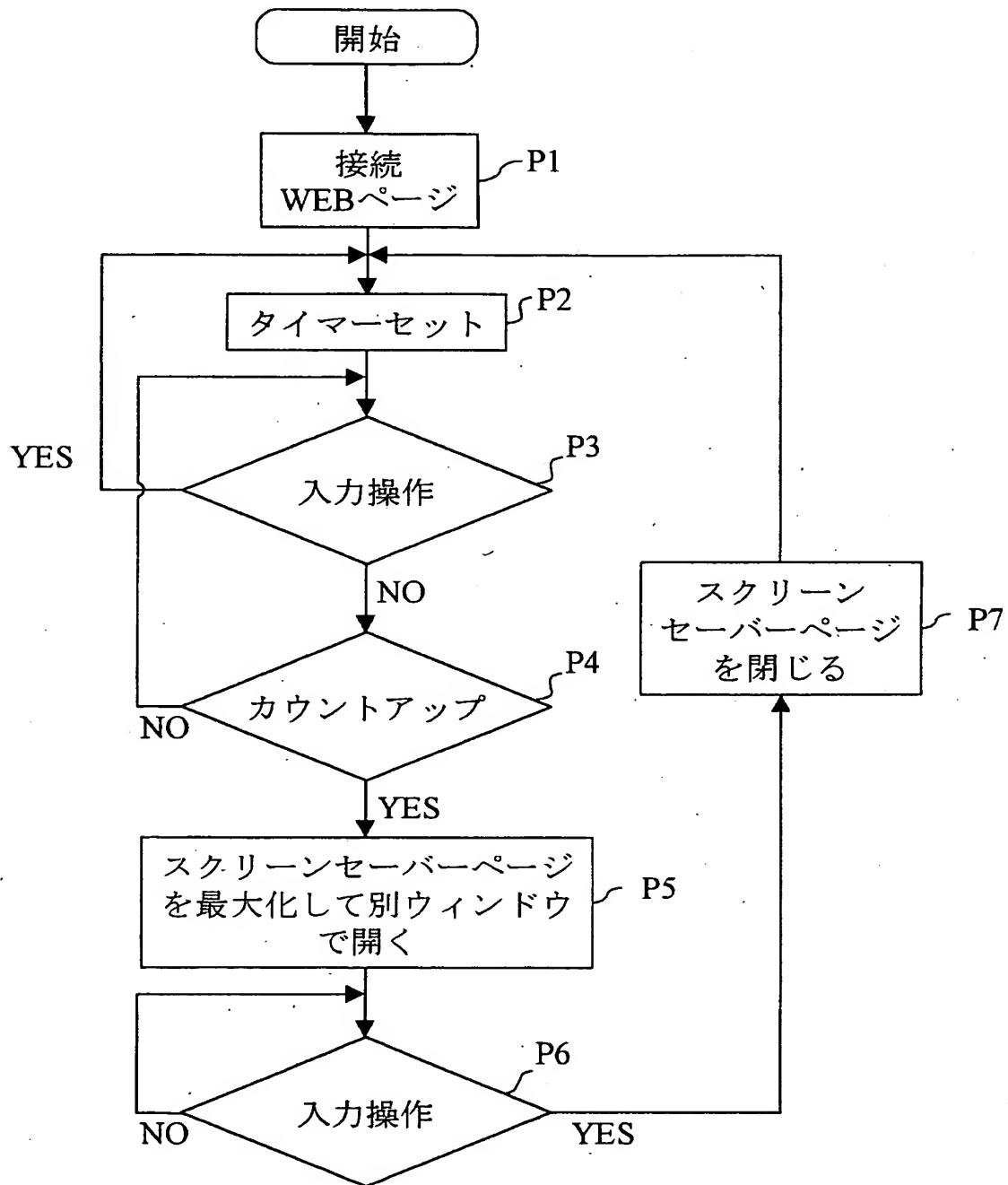
【図1】



【図2】



【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 汎用性をもってスクリーンセーバーを管理運営するとともに、適宜モニター画面上の表示内容を変更できしかもインストール作業を不要とする。

【解決手段】 コンピュータ端末装置 11 には Web ブラウザ 11a が備えられており、コンピュータ端末装置から情報提供者サーバ 14 にアクセスがあって、コンピュータ端末装置に Web ページが表示された際、コンピュータ端末装置から入力操作がなく予め定められた時間が経過すると、Web ブラウザは、例えば、Web ページからスクリーンセーバー情報として用いられるスクリーンセーバーページに自動的にジャンプする。このスクリーンセーバーページは、情報提供者サーバ側で管理運営されており、この結果、汎用性をもってスクリーンセーバーを管理運営することができる。また、情報提供者サーバ側で、スクリーンセーバーページを管理運営しているから、適宜モニター画面上の表示内容を変更でき、スクリーンセーバープログラムをインストールする必要もない。そして、スクリーンセーバーページを広告媒体として用いれば、不特定多数のユーザーに広告を行うことができる。

【選択図】 図 2

【書類名】 出願人名義変更届
【提出日】 平成13年 6月27日
【あて先】 特許庁長官 殿
【事件の表示】
 【出願番号】 特願2000-338734
【承継人】
 【識別番号】 501120384
 【氏名又は名称】 酒谷 信佳
【譲渡人】
 【識別番号】 500514096
 【氏名又は名称】 株式会社イー・ビジョン
【承継人代理人】
 【識別番号】 100104880
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 古部 次郎
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 081504
 【納付金額】 4,200円
【提出物件の目録】
 【物件名】 承継人であることを証する書面 1
 【提出物件の特記事項】 追って補充する
 【包括委任状番号】 0104448
【プルーフの要否】 要

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-338734
受付番号	50100931264
書類名	出願人名義変更届
担当官	末武 実 1912
作成日	平成13年 8月 7日

<認定情報・付加情報>

【承継人】

【識別番号】	501120384
【住所又は居所】	神奈川県相模原市鶴野森1-18-18 サンシ ティイズミ204
【氏名又は名称】	酒谷 信佳
【承継人代理人】	申請人
【識別番号】	100104880
【住所又は居所】	東京都港区赤坂5-4-11 山口建設第2ビル 6F セリオ国際特許事務所
【氏名又は名称】	古部 次郎

【譲渡人】

【識別番号】	500514096
【住所又は居所】	東京都文京区本郷1-25-2 明幸ビル6階
【氏名又は名称】	株式会社イー・ビジョン

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500514096]

1. 変更年月日 2000年11月 7日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都文京区本郷1-25-2 明幸ビル6階

氏 名 株式会社イー・ビジョン